
狗狼（ランゴウ）と松浦ケント

matsuura

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ランゴウ
狼狼と松浦ケント

【Nコード】

N9425X

【作者名】

m a t s u u r a

【あらすじ】

最近、MHKの廃品回収屋の前を通ると「ケント」と呼びかける声^{ランゴウ}が聞こえる。

そして、廃品回収屋の巨大な狼狗^{ランゴウ}が、ケントに色々な話をする。ケントが用事で大連へ行って帰ってくると、狼狗^{ランゴウ}は消えていた。

10月5日ノベルストに投稿

この国では、地方によって飼われている犬の種類が大幅に違う。大連にいる時は、洋種（マルチーズ、ポメラニアン、ヨークシャーテリア、ハスキー等）の犬を飼っている人が目立った。

そして、大連でヨークシャーテリアを抱いている女性を見て、ヨキー・タウンという架空の街を思いついた。

MHKでは、中国産のローカル種のパグ（小型犬、紀元前400年ごろから中国に存在）や狼狗ランゴウなどが多い。

約15000年から10000年前、この国の東北地方にいた原初人類の蒙古通古斯族モンゴースが、狼狗（ランゴウ・オオカミ犬）を狩猟用に創出したようである。

だから、歴史上の観点から見て、このMHKで、狼狗ランゴウが多く飼われているとしても不思議ではない。

狼狗ランゴウは、非常に高度な知能、社会性を持っている。

昨日、ケントは、自宅で昼食を済ませたから、スーパーの興客家シンクウジヤと野菜市場で買い物をして、春天商業街を溜溜ぶらぶらして帰ってきた。季節の変わり目なので、MHKは風邪を引いている人が多い。

買い物に行つて、風邪をもらったようである。

ケントは、夕方から熱が出たので解熱剤を飲んで早目にベッドに入った。

向かいの建設現場で飼っている狼狗ランゴウが、悲しそうな声で吠える。まるで、狼が吠えているように。

最近、ケントが、MHKの愛民小区にある廃品回収屋の前を歩くと気味の悪い声で、「何か、面白い話を聞かせてくれよ、ケント」という声が聞こえてくる。

誰かが、ケントを呼んでいる。

謎の声が聞こえるようになったのは、ケントがペットボトルの空

き瓶と古紙を愛民小区の廃品回収に持って行ってからのことである。この国は、今、資源不足なので、ペットボトルの空き瓶・古紙・ガラス・金属類等の殆どのもが廃品回収屋で、なにかしらの金銭になる。

その廃品回収屋で、印象に残っているのは、2mほどある大きな狼狗ランゴウだった。

その狼狗ランゴウは、初めて会うケントに友好的な気配を見せている。

しかし、ケントの後から来た人には、牙を剥いて敵対するように飛び掛るような動作を見せた。

もし、その狼狗ランゴウに首輪が無くりードで繋がれていなければ、ケントの後から来た人に飛び掛っていただろう。

犬種としては、ジャーマン・シェパード（德国牧羊犬）とよく似ている。

しかし、ジャーマン・シェパード（德国牧羊犬）というよりは、「狼」に近い種類である。

MHKでは、その犬を「狼狗ランゴウ」と呼んでいる。

この国の普通語フウトンゴアにある「德国牧羊犬ジャーマン・シェパード」と言う呼ばれ方は、MHKではされていない。

やはり、MHKで飼われている「狼狗ランゴウ」は、狼が祖先なのだろうか。

狼の家畜化は、約15000年前から中国で始まり、世界化して行ったように推測する。

狼にも、大人しい性格や怖い性格や気難しい性格等色々な性格がある。

人は、家畜化しやすい大人しい性格の狼を犬として飼い。

狼は、人に家畜化される過程で攻撃性が減らされ、人が飼いやすいように改良されて来たのである。

しかし、狼にも、犬にも、個体差があり、性格が違う。

「ケント、俺たちは、昔、MHKを守っていたのだ」

「おまえは誰だ」ケントが言った。

「今は、犬と呼ばれているが、昔は、狼だったものだ」

「おまえ達は、ジャーマン・シェパード 德国牧羊犬と呼ばれているのではないのか」
「違う」

「昔、秋になると、毎年、この国の東北地方の山野に住む鹿やイノシシや狐、狸が、農作物（米・トウモロコシ等）を食べにM H Kにやって来る」

「おれ達は、M H Kに農作物を食べにやって来る鹿やイノシシや狐、狸からこの村の農作物を守った」

「俺たち狼は、山野に住む鹿やイノシシや狐、狸を食べ、生態系のバランスを守り、個体数も守ってきたのだ」

「カーウツドの書いた狼犬バリーも、俺たちの仲間さ」

2 .

「ケント、君のお父さんは奈良県の吉野出身だろう」

「そうです。なぜ、父のことを知っているんですか」

「俺たちの仲間から聞いたのさ」

「君のお父さんの先祖は、大昔、大和平野に住んでいた」

「俺たち狼の仲間も、吉野に住んでいた」

「私の父が子供の頃、満月の夜に、よく狼のような遠吠えを聞いたことがあったそうです。しかし、父が成長するに連れて、狼の声は聞こえなくなり、風の吹く音だけが聞こえるようになったそうです」
「絶滅というのは、風が吹くように忍び寄ってくると、私の父が話していました」

「神武天皇が、生駒山を越えて大和平野へ入って来た時に、君のお父さんの祖先である土蜘蛛族が吉野へ追い払われた」

「君のお父さんの名字は、中平と言った」

「江戸時代、君のお父さんの中平という一族は、重い税金に対して幕府に直訴した」

「直訴の後、災いを被らないように、名字を中平から伊藤に換えたのだ」

「なぜ、そんなことまで知ってるんだね」

「確か、1905年、奈良県東吉野村鷲家口で、日本最後の狼が捕獲されるまでは、日本の情報もよく伝わって来たものだよ」

「それ以後、日本の情報が伝わって来難くなった」

「少し、歴史とは差があるが、君のお父さんが小学校を卒業した時、日本の本州に居た狼は絶滅した」

「日本の狼でも、犬として人に飼われたものもいる」

「なぜなら、彼らは、全滅を怖れたからだ」

「人に飼われる方が、安全だと思ひ。自ら、人里へ犬として出ていったのだ」

「彼らは、二度と狼として山野へは帰らなかった」

「ケント、君の情報は、友達のイタチから聞いた話だよ」

「私の実家の周辺では、まだ、イタチが町の中に出没するらしい」

「私も、去年、実家へ帰ったとき、イタチを見ている」

「じゃ、君たち狼狗と日本狼は同じ道を歩んでいるのか」

「ほぼ、同じさ」

「しかし、中国の狼は、まだ、山野に少し残っている」

「人間によつて、MHKの山という山は、ほとんど田畑に開発されて、狼の住む場所が無くなった」

MHKでは家畜化した狼が犬となり、「狼狗」と呼ばれるようになった。

昔は、満月の夜しか吠えなかつた狼だが、今は、「狼狗」と呼ばれ出してから、毎晩のように吠えている。

人に飼われるようになってから「狼狗」は、山野を自由に駆け回ることが出来なくなった。

狼狗は、突然、

「日本人は、よく働く」

「満鉄が、この周辺に鉄道敷設に来た時は、松遼平原と長白山地の中間、松花江の支流である大柳河と梅河が交差するMHKに鉄道敷設の中心となる事務所を開いた」

「戦争が終わりかけているのに、日本人は、最後まで一生懸命鉄道の敷設に従事した」

「M H Kに、秋田小町の栽培を定着させたのも日本の農業技術さ。日本の農業技術者のレベルは高い」

「狼狗」は、よく喋った。色々なことをケントに話してくれた。

日本からお客さんが来たので、明くる朝のバスで、ケントは大連に移動した。そして、1週間後にM H Kにもどって来た。

ケントは、久しぶりに、狼狗ランゴウに会いたくなった。

狼狗ランゴウに会いに、ケントは、愛民小区にある廃品回収屋へ行ったが、いつもの場所に、狼狗ランゴウはいない。

「狼狗は、どうしたの」と、廃品回収屋の小父さんに尋ねた。

「この前の雨の降った満月の夜に、狼狗ランゴウは居なくなつたよ。不思議だね」

「まるで、消えたようだ」と、廃品回収屋の小父さんは言った。

小父さんは、狼狗ランゴウを可愛がっていた。

時々、骨付きの肉を狼狗ランゴウにやっていた。

「それは、惜しいことをしました」と言っつて、ケントが廃品回収屋を出た途端、狼狗ランゴウの声が聞こえた。

「俺は、用事が出来たので長白山へ行く」

「短い付き合いだったな、ケント」

「俺は、M H Kに、もう少し居たかった」と、狼狗ランゴウが言ったところで、ケントの夢が覚めた。

ケントの熱は下がっていた。

昼前、ケントは、ペットボトルの空瓶を52本持って廃品回収屋に行った。

巨大な狼狗ランゴウは、何も無かつたように、廃品回収屋の中央の定位置にリードで繋がれて寝そべっている。

一生懸命、ケントが、狼狗ランゴウに話しかけても返答が無い。

ケントに、新しい友達ができた。話をしなくとも、見守っていてくれる。
了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9425x/>

狗狼（ランゴウ）と松浦ケント

2011年10月26日12時01分発行